

チャペル週報

疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしの
もとに来なさい。休ませてあげよう。

(マタイによる福音書 11:28)



2009.7.6~7.15 No.13
関西学院宗教センター

☆チャペル・スケジュール☆

時間 10:35～11:05 場所 各学部チャペル

7月6日(月)	神 庄 司 翼 (神4) 経 舟 木 讓 (宗教主事) 人 大切なこと⑨徳 田 真 二 (吉岡記念館職員) 短大 聖書物語「ダビデ」
7月7日(火)	神 神 田 健 次 (神学部教授・学部長) 文 山 内 一 郎 (名誉教授) 社 幸せって何だろう?⑥ Hans P. Liederbach (社会学部教授) 法 栗 林 輝 夫 (宗教主事) 経 舟 木 讓 (宗教主事) 商 音楽チャペル ハンドベルクワイア 教 吉 田 孝 (教育学部教授) 総 上ヶ原聖歌隊 讚美
7月8日(水)	神 音楽チャペル トーンチャイム隊 社 チャペル・メディテーション ― 命の水を求めて ― 法 Christian Morimoto Hermansen (宣教師) 経 アンドレアス・ルスターホルツ (宗教主事) 商 音楽チャペル ゴスペルクワイア 人 大切なこと⑩ 嶺 重 淑 (宗教主事) 理 心に響くベルの音と共に 理工学部ハンドベル 総 対話 (Joseph DeChicchis & 今 泉 信 宏) 短大 キリスト教学科
7月9日(木)	神 山 内 一 郎 (元院長・名誉教授) 文 アンドレアス・ルスターホルツ (宗教主事) 社 幸せって何だろう?⑦ 森 久美子 (社会学部教授) 法 栗 林 輝 夫 (宗教主事) 経 永 田 雄次郎 (文学部教授) 商 English Chapel Richard J. Stinson (宣教師) 総 辻 本 久 夫 (兵庫県在日外国人教育研究協議会事務局長) 短大 聖和JAZZ礼拝 竹 中 真 (ボストン、パークリー音楽大学教授)
7月10日(金)	院 平 林 孝 裕 (神学部教授) 神 山 本 美 紀 (神学部非常勤講師) 文 English Chapel Andreas Rusterholz (宗教主事) 経 舟 木 讓 (宗教主事) 人 木 原 桂 二 (神D2) 教 清 矢 良 崇 (教育学部教授) 理 「揺れる想い」松 木 真 一 (宗教主事)
7月13日(月)	神 観 寺 イサク (神4) 経 舟 木 讓 (宗教主事) 人 Big Street (スウェーデン・ストリートバンドプロジェクト) 短大 聖書物語「ソロモン王」
7月14日(火)	神 Julia 碧 Thrasher (中学部教諭) 文 春学期終了チャペルパーティ 社 チャペル・コンサート Big Street (from Sweden) 法 柴 田 信 也 (被災者生活支援・長田センター主事) 経 舟 木 讓 (宗教主事) 商 山 本 俊 正 (宗教主事) 教 芝 田 正 夫 (教育学部教授) 総 末 岡 成 夫 (近畿福音ルーテル 三田北摂教会牧師)
7月15日(水)	神 キリスト教音楽に触れよう③水 野 隆 一 (神学部教授) 社 学期末にあたって 高 坂 健 次 (社会学部教授・学部長) 法 English Chapel Christian Morimoto Hermansen (宣教師) 経 村 田 治 (経済学部教授・学部長) 商 山 本 俊 正 (宗教主事) 人 芝 野 松次郎 (人間福祉学部教授・学部長) 理 春学期を振り返って (今学期最終礼拝) 総 対話 (Paul Hays & 今 泉 信 宏) 短大 幼児教育学科

ベーツ先生のこと

細見和志

ふとしたきっかけで目にとまった文章の内容が、記憶の片隅にひっかかって離れないことがある。なぜ引っかかっているのか、ゆっくり考えている暇はない。でもきつとなにか自分にとって大切なメッセージが隠されているに違いないと思って、とりあえず引出しにしまっておく。

このチャペル週報の原稿を考えているときにも、そうした文章の一つに出会った。「関西学院広報」(Vol.252)に、学院史編纂室の池田さんがお書きになった「ベーツ先生の原点」という記事がそれだ。

ベーツ先生といえば、関西学院第4代院長として、学院の運営と発展に多大な貢献をされ、学院史のなかで特に目立つ人物のひとりである。関西学院に連なる者なら、ベーツ先生の名前は聞いたことはなくても、彼が提唱した「Mastery for Service」は知っているはずだ。

ベーツ先生の写真を見たことがある。そのほとんどが数人の学生と同僚の教員と一緒に集合写真だが、ベーツ先生だけは一目でどこにいるのかわかる。学院史を彩る数々の偉い先生がたのなかでいちばん好きな人物とは聞かれたら、私は迷わずベーツ先生の名前を挙げる。

池田さんの文章が目にとまった理由の一つは、たぶんベーツ先生に関する記事であったからだろう。だが、それだけではない。偉大なる院長、ベーツのエピソードを紹介した文章はこれまでに何度か読んでいる。そのつど興味深く読んだが、記憶にはあまり残っていない。では、どこにひっかかったのか。

それはこの記事の次のくだりである。「少年時代のベーツは、日曜日の朝は長老派、午後は英国国教会、夕方はメソジスト教会に通っていました。この3つの異なる教会での祈り、礼拝、讃美の経験が、自分のライフワークの原点だったと晩年のベーツは振り返っています。」

一般のクリスチャンは、日曜日に教派の異なる教会の「はしご」などはしない。日曜日の朝、自分の属する教会の礼拝に出席すればそれでいいのである。しかし、ベーツは3つの教派の違う教会に通い、しかもその経験が彼の人生に重大な意味を持っていたというのである。

私がこの記事に目をとめた理由は、ベーツがメソジスト教会の信者でありながら、他の教派にも深い共感と敬意を抱いていたことを知ったからである。こうした彼の宗教的な寛容の精神を育んだのは、宗教的にも言語・文化的にも多様なカナダの小さな村であった。異なる文化や宗教の共生が課題となっている今日、私は「ベーツ先生の原点」に立ち戻って考えてみたいと思った。

(総合政策学部教授)

-
- ◇ランバス早天祈祷会 毎金曜日 午前8:00～8:20 於：ランバス記念礼拝堂(上ヶ原)
7月10日(金)夏休みを前にして 舟木 讓
- ◇総合政策学部早天祈祷会 毎木曜日 午前8:40～ 於：宗教主事室
-

●関西学院チャペル・オルガニスト秋の発表会

各学部のチャペルで奏楽を担当するチャペルオルガニストはじめレッスン生たち36人が練習の成果を披露します。パイプオルガンに関心のある方、そしてランバス記念礼拝堂に入ったことのない方もお気軽にお越しください。演奏中以外は入退場自由です。

と き：10月10日(土)10時～16時（途中昼休憩あり）

ところ：ランバス記念礼拝堂（上ヶ原）

指導者：高橋明子、太宰まり

主 催：吉岡記念館宗教センター

●ランバスチャペルアワー

学生たちが企画するチャペルです。秋学期の予定は以下のとおりです。

10月20日(火)

11月17日(火)

12月15日(火)

いずれもランバス記念礼拝堂（上ヶ原）にて10:35～11:05

●大阪梅田キャンパスチャペル

阪急梅田駅から徒歩すぐ、アプローズタワー14階の大阪梅田キャンパスではチャペルアワーを開催しています。

7月10日(金) 田淵 結（宗教総主事）

7月17日(金) アンドレアス・ルスターホルツ（文学部宗教主事）

いずれも18:00～18:20

●CD・DVDライブラリー

吉岡記念館事務室宗教センターには、教会音楽、キリスト教に関するCDやDVDを備えています。本学学生及び教職員（学生証または身分証明書必要）であればどなたでも利用できますので、希望者は事務室までお越しください。

●使用済み切手収集にご協力ください

本学では日本キリスト教海外医療協力会（JOCOS）切手部の活動に協力し、使用済み切手の収集をしています。通常切手も対象としていますのでどうぞ吉岡記念館常設の回収箱にお届けください。

春学期の「チャペル週報」は本号が最終号となります。授業期間中毎週月曜日発行の本紙には、各学部のスケジュールほか、教職員によるエッセイなどを掲載しています。この欄は執筆者のお人柄や読者へのメッセージに触れることが出来る場です。各学部のチャペルとともに、あなたの心に何かを残すことができれば幸いです。

秋学期の発行は9月21日(月)からです。よい夏休みを！